子どもは社会の宝　地域の子どもは、地域で見守り育てよう

議会の虫めがね

東日本大震災犠牲者に哀悼の意を表します

一日も早い復興を！

体育館に500人の被災者

東日本大震災被災地の宮城県石巻市に、本町職員の岡本健司君が派遣されました。現地の状況をインタビューしました。

質問　岡本君、ご苦労様でした。伯耆町内で初めての派遣でしたけど、先ず感想を聞かせてください。

岡本　地震と違い、津波はすべての物がなくなってしまう。とても悲しかったです。

質問　行った者しか分からないと思いますが、詳しく聞かせてください。まず派遣期間はいつでしたか。

岡本　鳥取県から本町に二名の派遣要請があり、まず私が派遣されました。県で第二陣目ですが、三月二十六日～四月一日の七日間でした。

質問　どのような任務につきましたか

岡本　避難所になっている鹿妻小学校の放送室で五日間、寝袋、毛布、掛け布団、風呂なしで過ごしました。物資の仕分け、搬入、配給、受付、清掃、学校の施錠等が主な仕事で、看護士協会の看護師、自ら被災者である保育士、大学生、中学生のボランティアと役割分担での作業でした。

被災状況

質問　避難生活の様子はどうでしたか。

岡本　皆さん苦しみに耐え、我慢強く教室、体育館に千人の被災者が避難生活をおくっていました。暖房、水道は無く、体育館の空気は悪く、嘔吐、発熱、下痢をする人が増え、ノロウイルスの心配があります。トイレが使えないため、私自身、新聞に大便を包んで容器に入れた時は、とても悲しかったです。

質問　今、何が必要だと思いますか。

岡本　アンケートでは九十五％の被災者が地元に残りたいとの結果でした。

何とかコミュニティーを残してあげたい。そのために、復興の目標が必要だと思いました。

岡本君、お疲れさまでした。ショックを十分ほぐして、職場に復帰してください。ありがとうございました。

（大森・渡部）

熱く語る岡本君（中央）

「議会だより」に対するご意見をお待ちしております。

編集後記

被災経験がある私達でも、比較できない津波災害。自然の前には無力だと、この災害が教えてくれました。便利さ、経済優先を求めながら、そのリスクに目を向けなかったつけは、余りにも大き過ぎました。原発災害で、福島県民に「福島と書いた背番号を着けろ」という心ない発言があったとのこと。原発が必要だとしても、国民にリスクを負う覚悟があるか、改めて問うべきではないでしょうか。そしてこの災害、国民全体で負担すべきではないでしょうか。

（大森英一）

【編　集】
議会広報特別委員会
委員長　大森　英一
副委員長　渡部　勇
委　員　幅田千富美
委　員　幸本　元
委　員　勝部　俊徳
委　員　篠原　天

この議会だよりは再生紙を使用して印刷されています。

■発行／鳥取県西伯郡伯耆町議会　TEL(0859)68-3112　印刷／冨士印刷有限会社